



PRESS RELEASE

岡山大学記者クラブ加盟各社 御中

令和 7 年 12 月 12 日
岡 山 大 学

下石井公園の魅力向上に向けたストリートファニチャーを製作！ 岡山市と共同で、西粟倉村産の木材を使用、効果検証も

- ・ 下石井公園の魅力向上事業の一環として、公園における市民の多様な利活用を促すためのストリートファニチャー※1) を岡山市と共同で製作しました。
- ・ 製作にあたっては、「西粟倉森の学校」と連携し、岡山県産材を活用。「おひろめ DAY」には、端材を用いた竹とんぼづくりワークショップも開催し、多くの子供たちが参加しました。
- ・ 製作したファニチャーを公園内に実験的に設置し、その機能性や効果等を検証することで、公共空間の魅力向上に向けたストリートファニチャーのデザインの体系化を目指します。

岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域の堀裕典准教授の研究室（建築計画・都市計画）に所属する学生が、下石井公園（岡山市北区幸町 10）の魅力向上事業の一環として、公園の多様な利活用を促すためのストリートファニチャーを設計・製作しました。設計段階に先立って実施した公園の実態調査から得られた結果や、海外のストリートファニチャー事例の分析をもとに、テーブルや椅子、棚などとして使えるボックス型のファニチャーと、子供の遊び道具や背もたれとして使える三角型ファニチャーの 2 種類を考案。製作後は、公園内に実験的に設置され、その機能や効果等の検証を進めています。

検証初日には、ファニチャーのお披露目企画として、イベント参加者に向けたファニチャーの使い方のレクチャーのほか、木材を使った竹とんぼづくりワークショップを行いました。子供から大人まで、さまざまな方が参加し、早くもストリートファニチャー設置による魅力向上の効果がうかがえました。また、ファニチャーやワークショップで使用した木材には、岡山県産材（西粟倉村産）を使用しており、地域貢献や公園利用者のストリートファニチャーに対する満足度の向上につながることを期待しています。

本取り組みは、ストリートファニチャーの開発・設置によって、より多くの人々が魅力を感じる環境づくりに貢献することを目的としています。これは、その都市の快適性や魅力を高めることであり、地域の活性化につながります。

◆研究者からのひとこと

堀研究室では、建築から関連法制度、都市デザインやまちづくりに至るまで国内外問わず、幅広い分野の研究・実践を行っています。下石井公園やハレまち通りでは、公共空間の評価分析も行っており、「居心地の良い歩きたくなるまち」とはなにかを研究しています。



堀准教授

PRESS RELEASE

■発表内容

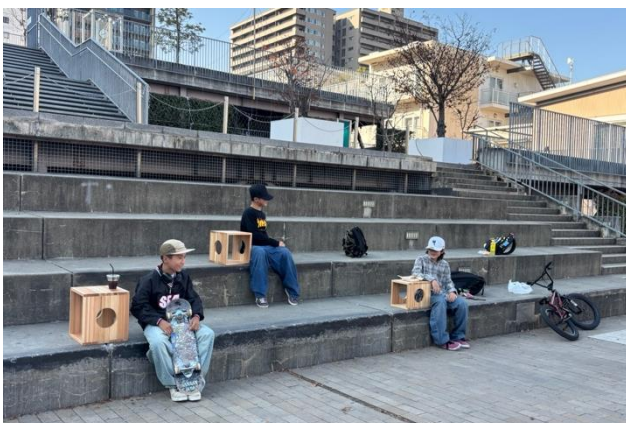
<現状>

近年、公共空間（街路、公園、広場、空地等）をウォーカブル^{※2)}な人中心の空間へ転換し、民間投資と共鳴しながら「居心地の良く歩きたくなるまちなか」の形成を目指す取り組みが、全国で盛んに行われています。下石井公園もその一つの事例として、岡山都心地区の都市再生整備計画^{※3)}（令和4～8年度）にて、まちなかウォーカブル推進事業の事業箇所として選定されており、多くの人々が魅力を感じる環境づくりに力を入れている公園です。

<研究成果の内容>

このような背景より、下石井公園のさらなる魅力向上に向けて、岡山市と岡山大学が共同で日常時やイベント時に利活用できるストリートファニチャー（三角型・ボックス型）を製作しました。設置場所は、公園の実態調査結果を踏まえ、利用者の滞在場所として多かった芝生上と階段としました。また、階段には、ランチ休憩をするサラリーマンや、放課後に集まる学生がいるものの、寂しい雰囲気があったため、ここに置きたいという思いもありました。

製作したファニチャーは、どちらも可動式ファニチャーであり、自分の好きな場所に動かして自由に使ってもらいたいという思いもこめて、サイズ感や持ちやすさを検討しました。どちらも海外のストリートファニチャー事例を参考にしており、三角型は芝生上に合うデザイン、ボックス型は階段上に合うデザインからアイデアを拾っています。三角型ファニチャーは、子供たちの興味を惹くようなデザインにしたいという思いがあり、「秘密基地」や「お家」のイメージで三角形を採用しました。三角形で何が出来るかを考えて、背もたれや日除けとしての機能も追加しました。ボックス型ファニチャーのテーブルの円形のくり抜きは、持ちやすさ・軽量化を重視し、階段上に置いたとき、遠くから見ても存在感や可愛らしさが出るようにしました。また、公園の隣に図書館があるため、本棚としても使えるように、小説から雑誌まで収納できるサイズにしています。まったく新しいファニチャーを設置するというよりは、もともとある公園の要素に追加するようなイメージのファニチャーを考えていたこともあり、ピクニックワゴンのアイテムと組み合わせて使用できることも前提にデザインを考案するなど、階段上の公園の構造やさまざまな利用に生かせるように設計しました。



ボックス型のファニチャー



三角型のファニチャー

PRESS RELEASE

製作にあたっては、県産材を活用したいという思いがあり、西栗倉村の「西栗倉森の学校」のご協力のもと、何度もデザインの検討を行い、西栗倉村にて製作を行いました。製作過程で出た端材は、竹とんぼとして活用し、ワークショップで利用しました。11/30 に実施した「おひろめ DAY」には、大人から子供までたくさんの市民が参加して、公園内で竹とんぼを飛ばす姿が見られました。

今後は、公園内に実験的な設置を続け、その機能や効果等の検証を進めていきます。なお、本事業については、下石井公園管理運営・実証実験共同事業体とともに進めています。



製作の様子（西栗倉森の学校にて）



「おひろめ DAY」の竹とんぼワークショップの様子

<社会的な意義>

単なる「モノ」ではなく、人々の交流や滞在性を生み出す「場」をデザインすることで、街の賑わいや地域を活性化させます。また、検証を通じて利用者のニーズや行動を把握し、誰もが快適で安全に過ごせるストリートファニチャーのデザインの実現に貢献します。これらは、地域への愛着とコミュニティの形成を促し、持続可能なまちづくりの基盤となります。

■研究資金

本研究は、岡山市からの「西川緑道公園界隈まちづくり関連等業務委託」を受けて実施しました。

■補足・用語説明

- 1) ストリートファニチャー：屋外の家具
- 2) ウォーカブル：歩きやすい
- 3) 都市再生整備計画：<https://www.city.okayama.jp/jigyosha/0000012459.html>（岡山市公式ホームページ：2025/12/4 現在）



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

PRESS RELEASE



製作した学生



製作したファニチャー



竹とんぼ製作中



竹とんぼを飛ばす様子

<お問い合わせ>

岡山大学 学術研究院環境生命自然科学学域

准教授 堀 裕典

(電話番号) 086-251-8841



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

